（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ４ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立浦和第一女子高等学校 ）

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った 魅力あるリーダーを育成する女子高校

重　点　目　標	１　グローバルな視点で学びを支援し、自ら進路を切り拓く一女生を育成する。 ２　部活動や学校行事などを通して、何事にも主体的に取り組む一女生を育成する。 ３　外部連携を一層推進するとともに、一女の教育活動を積極的に発信する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	５名
	生徒	１名
	事務局（教職員）	１２名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日　現在）			実施日　令和５年２月１８日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	進路指導、学習指導については生徒の意欲を喚起しつつ成果を上げているが、常に生徒の状況を詳細に把握し対策を講じていく必要がある。 また、ＩＣＴを効果的に活用し、ＢＹＯＤに関しても先進的に取り組んでいるが、今後も国や県の動向を見据えて、授業や行事における活用方針を考えていく必要がある。 ＳＧＨ・ＳＳＨ事業を通して培われてきた探究学習の精神・ノウハウを継承し、さらに発展させていくことが必要である。	①主体的な学びを支援する授業改善の取組 ②高い志を育む組織的な進路指導 ③総合的な探究の時間を中心とした探究学習に関する取組	①生徒の主体的な学びを支援する授業改善。 ①ICT を活用した授業実践の研究。 ①観点別評価への取組。 ②生徒面談等を通じた詳細な生徒理解の取組。 ②組織的な進路指導の実施。 ③探究学習とアウトプットの充実。	①主体的な学びに関するｱﾝｹｰﾄ項目の肯定的回答９割程度 ①一人一台端末の導入に向けた検討状況 ①観点別評価によるフィードバックの実施状況 ②面談に関するｱﾝｹｰﾄ項目の肯定的回答９割以上 ②オンラインを含めた進学講座の開講状況 ②進路指導に関するｱﾝｹｰﾄ項目の肯定的回答９割程度 ③探究学習等に関するｱﾝｹｰﾄ項目の肯定的回答９割程度	①計画通りに授業改善の取組を進めることができた。 ・興味関心を高める授業が行われていると感じている生徒 90.4%【生】 ・BYOD スタイルで導入し、新入生に対しては機種を例示することとした。 ・滞りなく観点別評価を実施し生徒へのフィードバックを行った。 ②効果的、組織的に取り組むことができた。 ・教師が親身になった相談にのってくれると感じている生徒 94.2%【生】、適切な進路指導が行われていると感じている生徒 90.9%【生】 ・オンラインを含め 60 の進学講座を開講。進路研修会・情報交換会等により全職員で進路の在り方を共有。進路だより全学年で 39 号発行。 ③ほぼ達成することができた。 ・ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育等が充実していると感じている生徒 86.8%【生】、SSH 活動が充実していると感じている生徒 95.6%【生】	A A A	進路指導・学習指導については一定の成果を上げているが、情報発信をさらに強化するとともに、さらなる向上を目指し対策を講じていく必要がある。 一人一台端末導入に向けた活用方法等の情報共有は行われているが、導入後効果的に活用されるようさらに準備を進める必要がある。 コロナ禍においても感染防止対策を徹底しながら国際交流等のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育を一層進めていく必要がある。	・ICT 化への迅速な対応は素晴らしかった。次年度、一人一台端末導入に向け、効果的な活用についての研究が進められることを期待している。 ・進路だより 39 号発行は生徒に大きな影響を与えていると思われる。 ・探究学習で準備の段階から専門家の支援が取り入れられたことは素晴らしい。 ・これからの社会で求められる人材育成を目指し、各教科の学習に止まらず探究的学習に引き続き力を入れ取り組んでほしい。 ・ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育は今後より必要とされるため、さらなる取組の検討を期待する。 ・アンケート肯定回答 9 割に満足せず、アンケート項目の検討も必要である。
2	部活動や学校行事などに積極的に取り組む生徒が大多数であるが、この２年間は、学校行事等が変則的な実施となった。教育効果の高い形を模索し継続性を図っていく必要がある。 また、悩みを抱える生徒も増えてきており、スクールカウンセラーを２人体制にするなど組織的な支援に取り組んでいるが、今後も継続してきめ細やかな対応を行う必要がある。	①部活動や学校行事における教育効果の向上 ②教育相談体制の充実	①生徒たちが意欲をもって主体的に活動できる部活動や学校行事の実施。 ①コロナによる影響を最小限に抑え、行事等の流れを切らさないようにする。 ②教育相談に関する知識・情報等を得るための研修会を実施する。 ②スクールカウンセラーとの連携を一層進める。	①部活動、各行事に関するアンケート項目の肯定的回答９割以上 ①活動が制限された場合の代替行事等の実施状況 ①通常の実施形態の継続状況 ②研修会の実施状況 ②スクールカウンセラーの活用状況 ②支援を必要とする生徒の情報共有状況	①コロナ禍の制限はあったがほぼ達成することができた。 ・部活動が活発であると感じている生徒 97.6%【生】、学校行事や生徒会活動が盛んであると感じている生徒 97.0%【生】 ・体育祭は 3 年保護者へ公開、文化祭は保護者＋中学 3 年生へ公開し実施した。修学旅行も感染防止対策を徹底しながら実施した。 ②臨機応変に対応し概ね達成することができた。 ・今年度は研修会を実施しなかった。 ・従来のｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰに加え教育事務所及びｵﾝﾗｲﾝ相談を実施し教育相談回数 88 回。 ・養護教諭、学年主任、担任、教頭、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰで情報を共有した。	A B	部活動や学校行事等、コロナ禍以前の実施形態・状況に近づきつつある。次年度は感染対策と両立させながらさらに活発化・公開化の方向に進めていく必要がある。 ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰを 3 人体制に増やした。今後も継続してきめ細やかな対応を行う必要がある。	・部活動や学校行事をコロナ禍以前の状況まで近づけて実施できたことは大きな成果である。 ・部活動や学校行事は多くのことを学ぶ場である。引き続き力を入れてほしい。 ・コロナ禍での活動、実施を形態の工夫等で積極的にすすめてきたことが示されている。 ・スクールカウンセラーを３人に増やすなど対応も強力かつきめ細やかであり、より生徒・保護者に安心感を与えることが期待できる。 ・教職員の「親身になって相談にのる」姿勢は、とても大切であり、引き続きカウンセリングマインドを持った教員の育成をお願いしたい。
3	ＨＰ、一斉メール、Google Classroom 等を活用した情報発信は効果的に行われており高く評価されている。この取組を継続して行っていくことが肝要である。 また、土曜授業公開や学校説明会などの公開も充実しておりその維持・向上が必要である。 外部機関との連携については、コロナ禍ということもあり難しい部分もあるが、今年度も臨機応変な対応が求められる。	①本校教育活動に関する情報発信の質的・量的充実 ②外部機関との連携の充実	①ＨＰの更新など情報発信を全教職員で積極的に行う。 ①Google Classroom・一斉メールによる情報発信を積極的に実施。 ①土曜授業公開及び学校説明会を柔軟に工夫しながら実施。 ②コロナ禍以前に行っていた地域や外部機関との連携を復活させるとともに新しい形での連携を研究。 ②PTA・同窓会との連携を充実させる。	①ＨＰのアクセス回数６０万回以上、更新回数３００回以上 ①Google Classroom ・一斉メールを用いた情報発信の状況 ①授業公開及び学校説明会の実施状況および参加者の満足度 ②外部機関と連携した行事の実施状況 ②保護者アンケートにおける学校満足度９割以上	①情報発信の質、量ともに充実させることができた。 ・HP のｱｸｾｽ回数約 74 万回、更新回数 285 回（12 月末日現在） ・学年、ｸﾗｽ、教科、委員会等の集団において日常的に Classroom を用いた情報発信が行われた。 ・学校説明会 5 回、ﾐﾆ説明会 3 回実施し、1384 組の来校があった。 ②概ね達成することができた。 ・浦和ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰとの連携による地域連絡協議会協力校発表会を復活させたほか、新規に外部機関との連携開始も複数あった。 ・本校に入学させてよかったと感じている保護者 94.2%【保】	A B	随時、行事や部活動等の取組毎にＨＰの更新が行われている。また、学校説明会等の広報活動も丁寧に行われている。次年度も継続していくことが大切である。 外部機関との連携はコロナ禍以前に戻りつつある。次年度はさらに連携を進めることが大切である。	・丁寧に情報発信が行われていると感じる。 ・74 万回のアクセス、285 回の更新は素晴らしい。 ・外部との連携もコロナ禍以前に戻りつつあることは評価できる。 ・コロナ禍以前に「戻る」でとどまらず、新しいものの導入にチャレンジしてほしい。 ・地域の学校を目指し、今後も積極的に外部機関と交流をしてほしい。

【保】保護者アンケート、【生】生徒アンケートにおける回答率を示す